

くらし部会

1 今年度の活動目標・目的

目的:障がいの有無に問わず、多様な暮らしを選択できる地域をめざす。
「ユニバーサルデザインについて」「地域生活拠点の課題について」

2 部会開催状況

- ① 6月20日(木) 10時00分～12時00分 出席者 11名
- ② 8月29日(木) 10時00分～12時00分 出席者 12名
- ③ 10月23日(水) 10時00分～11時30分 出席者 24名
- ④ 12月11日(水) 9時30分～11時30分 出席者 20名

3 部会の取組、実施内容

取組	実施内容
ユニバーサルデザインについて	地域のバリアフリーやユニバーサルデザインの現状と課題について、部会で意見交換を行う。部会として、取り組みについて協議した。
地域生活拠点の課題について	支援度の高い方のためのグループホームや短期入所施設・生活介護事業所の場の不足について、各事業所より状況報告、情報共有を行う。人材確保、職員の研修、利用者の高齢化などの課題を共有した。

4 成果

- ・地域のバリアフリーやユニバーサルデザインの現状と課題について、各事業所からあげていただき、課題を整理した。エレベーターやユニバーサルシートがない施設で障がい者向けイベントが実施されている、音響式信号機の音が聞こえづらい交差点がある等のハード面での課題が整理できた。また、循環バス乗車時の対応等、各機関における障がい理解についてのソフト面での課題も共有することができた。
- ・地域のバリアフリーやユニバーサルデザインのハード面の課題への取り組みとして、次年度、愛知学泉大学と共同で、市内の循環バスのバス停沿いのトイレマップを紙面・インターネットの両方での作成を検討することにした。
- ・支援度の高い方のためのグループホームや短期入所施設・生活介護事業所の場の不足についての市内の課題と今後の取り組みについて整理することができた。
- ・市内に開所した日中支援型のグループホームで、支援度の高い方の受け入れがより進むように、市内の法人へ講師の派遣依頼をし、グループホーム職員に向けた研修を実施した。

5 課題(次年度以降の実施事項)

- ・地域生活支援拠点の課題である、支援度の高い方のための緊急時の受け入れ・対応、専門的人材の確保・養成、地域の体制づくり
- ・地域のバリアフリーやユニバーサルデザインの現状と課題へのソフト面への取り組みを検討
⇒障害のある方の移動に関する関係機関にアンケートを実施し、依頼があれば研修会等を実施し、障がいについてご理解いただくような機会を設けるなど

※次年度の具体的な取組

- ・地域生活支援拠点の課題について、地域で必要な取り組みについて連携方法や研修などの検討
- ・愛知学泉大学と共同で、市内の循環バスのバス停沿いのトイレマップの作成
- ・今年度に引き続き、福祉・健康フェアでの学生・若者企画のブースの出展

くらし部会ワーキング・学生参加型プロジェクト

1 活動目標・目的

目的：福祉事業所の若者人材不足の課題解決に向け、若者世代へ障がい福祉の魅力を発信し、福祉の人材確保に繋げていく。

2 参加者

愛知学泉大学 7 名（教員 2 名・学生 5 名）・至学館大学 3 名（教員 1 名・学生 2 名）
実行委員 4 名・事務局 5 名

3 ワーキング開催状況

- ① 4 月 16 日(火) 10 時 30 分～11 時 30 分
出席者 10 名（大学教員 3 名・実行委員 3 名・事務局 4 名）
- ② 4 月 24 日(水) 18 時 00 分～19 時 00 分
出席者 14 名（大学教員 1 名・学生 5 名・実行委員 3 名・事務局 5 名）
- ③ 5 月 30 日(木) 16 時 30 分～17 時 30 分
出席者 12 名（大学教員 2 名・学生 3 名・実行委員 3 名・事務局 4 名）
- ④ 6 月 27 日(木) 16 時 15 分～17 時 15 分
出席者 7 名（学生 2 名・実行委員 4 名・事務局 1 名）
- ⑤ 8 月 8 日(木) 16 時 15 分～17 時 15 分
出席者 8 名（学生 3 名・実行委員 4 名・事務局 1 名）
- ⑥ 9 月 5 日(木) 16 時 15 分～17 時 15 分
出席者 11 名（学生 6 名・実行委員 4 名・事務局 1 名）
- ⑦ 【福祉健康フェア当日】9 月 22 日(日) 8 時 30 分～15 時 30 分
参加者 16 名（大学教員 3 名・学生 7 名・実行委員 4 名・事務局 2 名）
- ⑧ 10 月 23 日(水) 11 時 00 分～12 時 00 分（くらし部会での活動報告）
出席者 9 名（大学教員 2 名・実行委員 3 名・事務局 4 名）

4 部会の取組、実施内容

取組	実施内容
人材確保	学生や地域の若者に福祉に興味をもっていただくための取組として、福祉・健康フェアで「学生・若者企画のブースの出展」を目指して取り組んだ。学生と市内福祉事業所若手職員が、実施に向けての意見交換をし、障害福祉の魅力発信に関する協議をした。

人材育成	市内福祉事業所若手職員が県内大学の学生と福祉・健康フェアの「学生・若者企画のブースの出展」について、企画から一緒に行うことで、交流を図りながら福祉の魅力を伝え、併せて障がいを持たれた方との出会いの場を提供した。
------	---

4 成果

- ・プロジェクト実行委員会では、第3回までは事務局全員と教授が参加していたが、第4回以降は事務局からは1名のみ参加、学生と若手職員で開催した。
- ・学生は、ブース企画をいくつも提案するなど、毎回意欲的に参加される様子が見られた。
- ・若手職員も初めての司会進行や学生との協議などを体験される中で、協議後に委員のみで集まり話すなど、積極的に参加されていた。
- ・福祉・健康フェア当日は、企画ブースに113名の来場者があり、目標の売り上げを達成した。部会員がブースに参加された方から「すごく楽しかった」との声を聞いている。
- ・当日は、学生がゲームに参加する障がいのある方に積極的に声をかけられ、ゲームを盛り上げる様子が見られた。福祉・健康フェア実施後の学生向けアンケートでは、全員が「楽しかった」や「障がいのある方への認識が変わった」と回答、大学側も「収穫があり、ありがたい」と来年度以降も参加予定と回答いただいている。
- ・若手職員は、全員が「来年度もプロジェクトに参加」との回答をいただいている。

5 課題 アンケート結果

- ・学生アンケートでの「福祉の仕事について」への回答は「楽しそう、将来やってみたい」に回答はなく、全員が「大変そう」に回答していた。魅力の発信については、SNS(Instagram)の活用意見が多かった。
- ⇒来年度、SNSの活用やプロジェクト開催時に実行委員から毎回福祉の一言エピソードを伝えるなど、福祉の魅力発信についてさらに検討する。

※次年度の具体的な取組

- ・今年度に引き続き、福祉・健康フェアでの学生・若者企画のブースの出展

くらし部会ワーキング 防災・災害に向けた啓発イベント

1 活動目標・目的

目的:障がいのある方やその家族への災害への備えへの啓発

2 参加者 大府市社会福祉協議会 2 名・くらし部会事務局 4 名

3 ワーキング開催状況

- ① 5 月 15 日(水) 11 時 00 分～12 時 00 分 出席者 6 名
- ② 7 月 2 日(火) 10 時 30 分～11 時 30 分 出席者 6 名
- ③ 10 月 2 日(水) 15 時 00 分～16 時 00 分 出席者 6 名
- ④ 1 月 22 日(水) 10 時 00 分～11 時 00 分 出席者 6 名
- ⑤ 【防災フェア前日準備】 2 月 3 日(月) 13 時 00 分～17 時 00 分
出席者 12 名(社会福祉協議会 2 名・事務局 4 名・くらし部会 6 名)
- ⑥ 【防災フェア当日】 2 月 4 日(火) 10 時 00 分～12 時 00 分
○フェア参加者 84 名
○講演・ブース参加者 32 名
(人間環境大学 1 名・大府市危機管理課 2 名・市民活動センターコラピア 2 名
・おおぶ防災ボランティア 7 名・尾西食品 1 名・自立支援協議会こども部会 5 名
・くらし部会 8 名・社会福祉協議会 2 名・事務局 4 名)

4 取組、実施内容

取組	実施内容
災害に対する備えの啓発	障がいのある方やその家族が、来るべき大規模災害に対する備えについて考えていただく機会を創出する取組として、「障がいのある人のための防災フェア」を実施
防災・減災意識の向上	「障がいのある人のための防災フェア」の中で、ミニ勉強会と体験・展示を検討、実施することで、市民の防災減災意識の向上を図り、本人の特性に合った対応・対策の推進に取り組んだ

5 フェア当日内容

(1) ミニ勉強会

- ①「大規模災害の備え」 大府市 危機管理課 防災危機管理係 竹村 知紘氏
- ②「障がいのある方の災害対策について」

大府市 高齢障がい支援課 障がい福祉係 神田 樹氏

③「障がいや病気を持つ人への災害の備え」 人間環境大学 看護学部 天野 薫氏

(2) 体験・展示

- ① 私や家族の避難計画「マイ・タイムライン」を作ろう! 《大府市自立支援協議会こども部会》
- ② 非常持ち出し袋・備蓄品について知ろう! 《市民活動センターコラビア・NPO 法人愛知ネット》
- ③ いろいろな防災体験をしてみよう! 《おおぶ防災ボランティア》
- ④ 非常食を食べてみよう! 《尾西食品株式会社》
- ⑤ 防災トイレ・段ボールベッドを組み立ててみよう! 《大府市自立支援協議会くらし部会》
- ⑥ パネル展示 被災地での支援活動の紹介
《大府市危機管理課・大府市消防本部 大府市社会福祉協議会》

6 成果

- ・当日の防災フェアでは、参加者84名、運営側を含めると110名以上の方が参加した。当事者・ご家族・事業所職員など様々な方が参加され、多くの方が災害に対する備えについて考えていただく機会となった。さらに、講師やブース出展者の中には、日頃障がいのある方と関わる機会のない方も多く、障がいのある方の防災について、運営側の参加者にも改めて考えていただく機会となった。
- ・ワーキングの報告をくらし部会で重ねるうちに、部会員の障がいのある方の防災への取り組みに対する意識向上を図ることができた。
- ・フェア当日の参加者アンケートでは、「参加してよかった」「防災や備えについて理解が深まった」「災害に備えておこうと思った」などの感想がほとんどだった。また、今後取り組みうと思った備えとしては、「一般的な防災の備え」「障がいや病気に関する備え」「家族で話し合う」など、ワーキングの目的である自助の取り組みへの意識を高めることができた。

7 アンケート結果(70名回答)

○感想(複数回答可)

- ・参加してよかった(54) ・防災や備えについて理解が深まった(44)
- ・災害に備えておこうと思った(50) ・内容がよくわからなかった(1)
- ・災害が心配になった(13) ・支援者に相談したいと感じた(8)

○災害の備えとして取り組みうと思ったもの(複数回答可)

- ・一般的な防災の備え(57) ・障がいや病気に関する備え(33) ・家族で話し合う(45)
- ・近所で話し合う(13) ・支援者や病院に相談する(6)

○意見・感想

- ・楽しく参加できた ・次は子どもと一緒に参加したい ・定期開催して欲しい ・勉強になった
- ・備えの必要性が分かった ・災害マップを確認したい ・足りないところを前もって準備したい
- ・多くの人に知ってもらいたい ・周りの支援が必要だと感じた ・地域のつながりが大事だと思った
- ・所属機関の準備の整理ができた ・災害時のスタッフ対応を確認し、利用者と共有したい
- ・事業所の近隣地域とのつながりや地域の防災訓練への参加など、対策をしたい

- ・防災トイレに手すりや高さが欲しい ・トイレのことが心配、市でもトイレトレーラーを導入して欲しい
- ・指定福祉避難所のみ直接避難可能なことに驚いた
- ・保存食がおいしかった ・リュックの配布があると準備に取り組みやすい
- ・体験は時間がなく全て回れなかった ・もう少したくさん体験できる工夫があるとよかった
- ・グループディスカッションなど支援者と当事者家族の声を聴くなどの研修もよい